

目次

はじめに

本書をお使いになる方へ.....	vi
------------------	----

実力養成編

第1部 評論・解説・エッセイなど

1. 文章のしくみを理解する—文章全体の意味を捉える練習	
1) [対比] ほかのものと比べる.....	4
[コラム1] 常識の落とし穴.....	9
2) [言い換え] ほかの言葉で言い換える.....	12
3) [比喩] ほかのものにたとえる.....	20
[コラム2] あなたの意見・筆者の意見.....	25
4) [疑問提示文] 疑問文を使って論点を提示する.....	26
[コラム3] 疑問文に注意.....	31
2. 問いを解く技術を身につける—文章の細かい部分を正確に読み取る練習	
1) 指示語を問う.....	32
2) 「だれが」「何を」などを問う.....	40
[コラム4] カタカナ言葉に注意.....	45
3) 下線部の意味を問う.....	46
4) 理由を問う.....	54
5) 例を問う.....	62

第2部 広告・お知らせ・説明書きなど

1. 全体をつかむ—全体的な内容を尋ねる問い.....	70
2. 情報を探し出す—部分的な内容を尋ねる問い.....	82
1) 広告.....	82
2) お知らせ.....	92
3) 説明書き.....	102
4) 表・リスト.....	108

第3部 実戦問題

1. 内容理解 (中文)	116
2. 内容理解 (長文)	128
3. 主張理解 (長文)	142
4. 統合理解	153
5. 情報検索	171

模擬試験	190
------	-----

別冊 解答と解説

ほんしよ　つか　かた 本書をお使いになる方へ

■本書の目的

本書は以下の2点を大きな目的としています。

- ①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
- ②「読解」能力の向上：試験対策にとどまらない全般的な「読解」の力をつける。

■日本語能力試験N1読解問題とは

日本語能力試験N1は、「言語知識・読解」（試験時間110分）と「聴解」（試験時間60分）の二つに分かれており、読解問題は「言語知識・読解」の一部です。

読解問題はさらに以下の六つの部分に分かれます。

- 1 内容理解(短文) 4問(200字程度の短文に1問×4題)
- 2 内容理解(中文) 9問(500字程度の中文に3問×3題
ただし、問題数は変更される場合があります。)
- 3 内容理解(長文) 4問(1000字程度の長文に4問×1題)
- 4 統合理解 3問(合計600字程度の複数の文章に3問×1題)
- 5 主張理解(長文) 4問(1000字程度の長文に4問×1題)
- 6 情報検索 2問(700字程度の広告・パンフレットなどに2問×1題)

■本書の構成

本書では、上で紹介した日本語能力試験に合格できる能力を身につけられるように、日本語の文章や情報素材を読む練習を少しずつ重ねていく構成になっています。

じつりよくようせいへん 実力養成編

第1部 評論・解説・エッセイなど

1. 文章のしくみを理解する
2. 問いを解く技術を身につける

第2部 広告・お知らせ・説明書きなど

1. 全体をつかむ
2. 情報を探し出す

第3部 実戦問題

もどしけん 模擬試験

第1部から第3部まで、例題の後に練習がありますので、学んだことをもとに問題を解いてみましょう。以下に詳細を説明します。

第1部は、評論・解説・エッセイなどの文章を取り上げており、二つの部分からなります。

1. 文章のしくみを理解する
2. 問いを解く技術を身につける

1. 文章のしくみを理解する—文章全体の意味を捉える練習

ここでは、文章のしくみを理解する練習をします。

外国語の文章を読むときは、細かい点に気をとられていると、どうしても全体で何が述べられているのかまで注意が向かないことがあります。そこで、この本ではまず、文章全体で筆者が何を言おうとしているのかに注意を向けて読む練習をします。

N1レベルの能力試験を受験しようとする人たちの中には、日本語を読むことが得意ではない人、難しい漢字があると理解ができない人など、さまざまな人がいると思います。また、「文章の部分的な質問には答えられるが、全体で何を言っているのかがわからない」という人もいます。

そのような人にもわかりやすくポイントを示すため、例題では文章のしくみを図や記号を用いて解説しました。

- ・[対比] ほかのものと比べる
- ・[言い換え] ほかの言葉で言い換える
- ・[比喩] ほかのものにたとえる
- ・[疑問提示文] 疑問文を使って論点を提示する

こうしたしくみに気づくと、文章が理解しやすくなります。読むことが得意な人も、文章をより速く、より正確に理解することができるでしょう。

2. 問いを解く技術を身につける—文章の細かい部分を正確に読み取る練習

ここでは、実際の試験でよく問題に出される、以下のような形式の問いを取り上げ、それに答える技術を紹介し、練習します。

- ・指示語を問う
- ・「だれが」「何を」などを問う
- ・下線部の意味を問う
- ・理由を問う
- ・例を問う

細かい部分を考えることにより、文章を正確に理解できるようになります。

第1部は、日本語能力試験の「内容理解(短文)」のための練習になります。また、「内容理解(中文)」「内容理解(長文)」を読むための基礎練習にもなります。



例題 12 問いに対する答えとして最もよいもの一つ選びなさい。

2012年3月1日

各位

拝啓 早春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠に有り難うございます。

さて、これまで弊社は交通の不便なところにあり、皆さまには大変ご不便をおかけしておりましたが、この度新原田駅北口から徒歩1分のところに事務所を移転することになりました。4月1日より新事務所での営業を開始いたします。以前より広くなり、お客様との打ち合わせスペースも十分にとれるようになりました。

これもひとえに皆さまのご愛顧の賜物と感謝しております。今後も皆さまに満足していただけますよう、さらに多様化するITニーズに迅速かつ柔軟に対応していく所存でございます。

何とぞさらなるお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

新事務所：

〒465-3333 愛知県名古屋市中区新原田1-1-3

電話：052-000-0000

ファックス：052-000-000X

(電話番号、ファックス番号、メールアドレスは変わりません)

敬具

(株)イチイ・コンピュータ・エンジニアリング

代表取締役 山本三郎

〒465-3333 愛知県名古屋市中区松宮2-1-5

問い この手紙の目的は何か。

- 1 お世話になっている人へのお礼
- 2 新サービス開始の宣伝
- 3 新事務所開設の連絡
- 4 会社引越しのお知らせ

重要語彙

弊社 宣伝

関連語彙

貴社(手紙で使う) 当社 御社 辞退 苦情 催促

ステップ1 問いを読もう

問い：手紙(ビジネスレター)の目的は何か？

ステップ2 どのような文章が知ろう

◇会社から「各位(関係者の皆さま)」へのビジネスレター

◇ビジネスレターの目的/本題は「さて」「この度」の後にある。

さて、これまで弊社は交通の不便なところにあり、……、

この度……事務所を移転することになりました。

引越す

ステップ3 選択肢と比べよう

1：お礼状ではない。「誠に有り難うございます」はあいさつである。

2：宣伝ではない。

3：新しく事務所を開いたのではない。

4：正解

ビジネスレターの一般的な形式

○○年○○月○○日

各位(～様/お客様へ)

拝啓 ××××××××××××××××。

さて、××××××××××××××××

××××、この度、××××××××××××。

××××××××××××××××。

敬具

○○○○

○○○○

←白付(手紙を書いた日)

←宛名/宛先

←あいさつ 「拝啓」は手紙の初めに使われる。

←本題の始まり/状況説明
本題(報告/お願いなど)

この
要旨

←あいさつ 「敬具」は手紙の最後に使われる。

←会社名・肩書き

←差出人氏名

会社名と差出人氏名は右上(各位の下)のこともある。

例題25 次のAとBは、インターネットで「サマータイム」を検索した結果、出て来た文章である。AとBの両方を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

A

サマータイムとは、夏に時計の針を一時間進め、明るい時間を有効に使うという制度で、欧米など世界70以上が実施している。日本でも終戦直後に実施されたが、不評のため四年で廃止となった。近年、このサマータイムが再注目されている。サマータイムによって生じる余暇時間を、家族とのきずなを強めるなどライフスタイルを見直すための機会にしようというのが理由である。しかし、労働時間規制が緩い日本では、逆にサマータイムが労働時間の延長を促す危険があるのではないか。始業が一時間早まるだけで、終業時間は変わらない、などということが十分起こり得るであろう。欧州は労働時間を法律で厳しく規制している。このような社会的条件があって初めて、サマータイムによる「明るい余暇時間」が実現できるのだと言えよう。

B

サマータイムとは、夏季に時計を1時間早めることで太陽光線を有効に活用しようという制度である。先進国の多くが実施しており、日本でもGHQの指令で1949年から4年間実施された。最近、このサマータイム制度に注目し、再導入しようという声が上がっている。その主な理由は余暇時間の創出である。さらに、冷房時間や照明時間の短縮といった省エネルギー効果も期待されている。2005年に北海道で試験的に導入され、一定の効果が確認されたが、一方で、「生活リズムが崩れる」「日本の風土と合わない」といった反対意見も出された。また、欧州と比べて緯度が低く、日の入りの早い日本では、省エネルギー効果は小さいという批判もある。

問1 AとBのどちらにも書かれている内容はどれか。

- 1 日本でサマータイムの実施を始めた年
- 2 サマータイムを実施している国の数
- 3 日本でサマータイムが実施された年数
- 4 日本でサマータイムが廃止された理由

問2 サマータイムに再び注目する理由は何か。

- 1 明るい時間が長くなることで労働時間も長くなり、生産性が上がることが期待されるから。
- 2 省エネルギー効果も期待でき、余暇時間が増えることでライフスタイルを見直す機会にもなるから。
- 3 太陽光線を有効に使えば、新しいエネルギーを作り出すことができ、省エネルギー効果が上がるから。
- 4 時計を1時間早めれば1日の生活時間が長くなり、ゆっくり働いても、多くの仕事ができるから。

問3 サマータイムの日本への導入について、Aの筆者とBの筆者はどのような立場を取っているか。

- 1 AもBもともに明確にしていない。
- 2 AもBもともに批判的である。
- 3 Aは批判的であるが、Bは明確にしていない。
- 4 Aは明確にしていないが、Bは批判的である。



どのような文章か

A Bともインターネットにある文章。サマータイムについて書かれている。

問1に答える

AとBに共通の情報を探す問題

まず選択肢から探すべき情報をつかみ、本文にあるかどうか探す。

- 1 「実施を始めた年」 Bにある
- 2 「実施している国の数」 Aにある
- 3 「実施された年数」 A Bにある
- 4 「廃止された理由」 Aにある

3：正解

問2に答える

AとBの情報を統合する問題(AとBの情報を合わせる)

A Bから「導入しようとする理由」を探し、それを合わせる。

A：サマータイムによって生じる余暇時間を、家族とのきずなを強めるなどライフスタイルを見直すための機会にしようというのが理由である。

B：その主な理由は余暇時間の創出である。さらに、冷房時間や照明時間の短縮といった省エネルギー効果も期待されている。

- 1：労働時間が長くなることは期待されていない。また、生産性が上がる、とは書かれていない。
- 2：正解
- 3：新しいエネルギーを作り出すとは書かれていない。
- 4：多くの仕事ができるとは書かれていない。

問3に答える

AとBを比較する問題(AとBの筆者の立場の違いを読み取る)

A Bからサマータイムに対する意見を探し、それを比べる。

A：「…危険があるのではないか。」「…起こり得るであろう。」←筆者の意見(批判)

B：「反対意見も出された。」「という批判もある。」←他者の意見の紹介
筆者の意見は書かれていない

A=批判的 B=どちらでもない

3：正解



問3に答える

AとBを比較する問題(AとBの筆者の立場の違いを読み取る)

A Bからサマータイムに対する意見を探し、それを比べる。

A:「…危険があるのではないか。」「…起こり得るであろう。」←筆者の意見(批判)

B:「反対意見も出された。」「という批判もある。」←他者の意見の紹介
筆者の意見は書かれていない

A = 批判的 B = どちらでもない

3 : 正解

さくら会館の施設お申込方法

・さくら会館には、ホール(定員150名、ピアノあり)、練習室(定員20名、ピアノあり)、会議室(定員30名)の3つの施設があります。

・各施設とも抽選により利用申込を受け付けます。

・抽選日を過ぎた場合でも、空き施設があれば、先着順に一般申込を受け付けます。

1. 抽選による利用申込

★抽選日

毎月1日に、1か月分の抽選をまとめて行います。

○ホール:【使用日の6か月前(8月使用の場合、2月1日)】会館での抽選

○練習室:【使用日の3か月前(8月使用の場合、5月1日)】会館での抽選

○会議室:【使用日の3か月前(8月使用の場合、5月1日)】インターネット抽選

★抽選申込方法

○ホール: 抽選日の午後2時までに、さくら会館へ直接ご来館ください。

○練習室: 抽選日の午前10時までに、さくら会館へ直接ご来館ください。

○会議室: 抽選日の10日前から抽選日前日までの間に、さくら会館ホームページでインターネット抽選申込をしてください。抽選結果は、抽選日の昼12時から同月20日までホームページ上に掲示します。

2. 一般申込(抽選後の空き施設についての利用申込)

抽選後の一般申込は、全施設ともさくら会館にて受け付けます(インターネットでは受け付けません)。各施設の空き状況は、さくら会館ホームページでご確認いただけます。

3. 使用料の支払い

抽選申込の場合は抽選日当日から同月20日までに、一般申込の場合は申込日から5日以内にお支払いください。

どのような文章か

「施設(ホール、練習室、会議室)の申込方法」の説明

問1に答える

問：使用日12月7日 会議室の抽選申込方法は？

選択肢：6月？ 8月？ 9月？

会館へ行く？ ホームページ？

項目を見る

→「1. 抽選による利用申込」の「★抽選日」「○会議室」と「★抽選申込方法」「○会議室」を見る。

下線部に注目する

★抽選日

毎月1日に、1か月分の抽選をまとめて行います。

○会議室：【使用日の3か月前(8月使用の場合、5月1日)】インターネット抽選

★抽選申込方法

○会議室：抽選日の10日前から抽選日前日までの間に、さくら会館ホームページでインターネット抽選申込をしてください。

12月7日使用の場合、抽選日は9月1日である。

その10日前(8月22日)から前日(8月31日)までに申し込めばよい。

1：抽選日は6月1日ではない。

2：さくら会館での抽選ではない。

3：抽選日は使用日の3か月前の日ではない。

4：正解

問2に答える

問：使用日12月7日 ホールの申込方法は？ 今日は6月5日

選択肢：一般申込？ 会館で抽選？ インターネット抽選？

7月？ 8月？

項目を見る

→「1. 抽選による利用申込」の「★抽選日」「○ホール」を見る。

○ホール：【使用日の6か月前(8月使用の場合、2月1日)】会館での抽選

12月7日使用の場合、抽選日は6月1日だが、今日は6月5日である。

→もう終わっているので、抽選には申し込めない。

→「2. 一般申込(抽選後の空き施設についての利用申込)」を見る。

…全施設ともさくら会館にて受け付けます(インターネットでは受け付けません)。

各施設の空き状況は、さくら会館ホームページでご確認いただけます。

1：今日は6月5日なので、抽選では申し込めない。

2：インターネットでは申し込めない。

3：正解

4：インターネット抽選では申し込めない。

新完全マスター **読解**
日本語能力試験 **N1**

べつ ぎつ
別冊

かいとう かいせつ
解答と解説

実力養成編

練習1

芸術について書かれた文章である。

「旧ソ連やニューヨーク」と「日本」の対比に注目して、芸術についての筆者の考えを読み取る。

- ・旧ソ連やニューヨークではアーティストが優遇されている(第1段落)。
- ・日本では義務教育の教科から美術の時間が減らされたりしている(第2段落)。つまり、芸術が軽視されていると言える。

このような状況を見て、筆者は芸術の必要性を主張している。

1: 正解

- 2: 美術の時間がなぜ減ったかは、この文章のテーマではない。
- 3: アーティストに住居を提供するべきだとは書かれていない。
- 4: 「美」が重要なのは、人の心を豊かにするからではない。

練習2

東京と大阪の違いについて書かれた文章である。

「東京」と「大阪」の対比に注目して、「小異(=小さな違い)」を読み取る。

- ・東京の編集者やカメラマンは、大阪では一般市民が簡単に岸壁に出られることに驚いた(第3段落)。
- ・筆者(大阪の人)は、東京では岸壁に出られないことに驚いた(第3段落)。

筆者はこの体験から、東京は海岸線が閉じられている(=岸壁に出られない)が、大阪は開いている(=岸壁に自由に出入りする)という違いに気づいたのである(第5段落)。

- 1: 都市風景が似ているとは書かれていない。また、この文章のテーマは「小異」であって、似ている点ではない。
- 2: 出入口の向きについては書かれていない。
- 3: 違いは実際に岸壁に出られるかどうかで、一般市民がそれを知っているかどうかではない。
- 4: 正解

練習3

「おふくろの味(=今の男性が昔を懐かしんで求めている惣菜)」について書かれた文章である。

「昔」と「今」の対比に注目して、「おふくろの味」に対する筆者の考えを読み取る。

- ・昔は料理の素材がおいしかった(第3段落)。
 - ・今の素材は見た目は同じでも「全く別物」、つまり、全く違うものである(第3段落)。
- 素材がおいしくないから、昔と同じ料理を作っても、今は味気ないものになる(第5段落)。

このことから筆者は、男性が懐かしがる「おふくろの味」など、今はとうてい再現できない味なのだ、と述べている。

- 1：この文章のテーマは里芋ではない。
- 2：おふくろの味にももの珍しさを感じているのは筆者である。現代人ではない。
- 3：正解
- 4：今の料理が美味しくないのは、素材の味が違うからである。主婦の手抜きのためではない。

練習4

リーダーシップ論について書かれた文章である。

「ここ十年くらい」と「いま」の対比に注目し、なぜ今「リーダーシップ論」が再燃してきたのかを読み取る。

- ・ここ10年くらい、日本の組織は古い構造を壊そうとし、「個人化」「自由化」の方向に進めようとしてきた。上からの支配や管理は「悪」と見なされたため、「リーダーシップ論」ははやらなかつた(第2～3段落)。
- ・今は、「個人化」「自由化」が進みすぎて、自分一人では「どうしていいかわからなくなってきた」人が増えた(最後の段落)。

そのため、多くの人々がリーダー(=どうしたらいいか教えてくれる人)に支配されたいと考えるようになったのである(第1段落)。

筆者は、この人々の心理の変化が今の「リーダーシップ論」人気の理由だと述べている。

- 1：正解
- 2：個人化が進んでいないのではない。「あまりに進みすぎた」と書かれている。
- 3：組織が管理を強めはじめているとは書かれていない。
- 4：人びとは能力の高いリーダーを求めているわけではない。

練習5

筆者の幼稚園時代の思い出について書かれた文章である。

「地獄」の言い換えが何かをつかみ、どんな思い出かを読み取る。

「地獄」=幼稚園の「お弁当室」と呼ばれる部屋の戸口の床の、…そこだけタイルの色が変わっている部分

園児たちは「みんな決死の覚悟で「地獄」を飛び越えた」のである。

- 1：「地獄」は床の一部であって、部屋ではない。
- 2：床を踏まなければいけなかったのではなく、踏まないように飛び越えていた。
- 3：先生たちが考えていたのではなく、園児たちが考えていた。
- 4：正解